

京都YWCA

U 2015 YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

衆軍基地が建設された 京用後命守川ってどんなとと?

みなさんは京都府に米軍基地が建設され、昨年10月にXバンドレーダーとよばれる最新式ミサイル探知レーダーを設置し、12月から稼働していることをご存知ですか?京都YWCAでは3月22日に、京丹後の自然を満喫すると共に、「米軍基地建設を憂う宇川有志の会」事務局長の永井友昭さんの案内で、基地と周辺事情を知るツアーを実施しました。

基地の建設された京丹後市丹後町宇川地区は丹後半島の北端にあり、京都市内からは、天橋立や伊根の舟屋など景勝地を経由して4時間弱のドライブです。宇川は絶滅危惧種のハヤブサの生息地であり、日本の棚田百選に選ばれた「袖志の棚田」や経ケ岬の灯台、カニで有名な間人が近くにあります。

基地建設の経緯と影響

住民に対して十分な説明の無いままに防衛省が「安心・安全」だと基地建設を推進し、人口が1600人未満の所へ、米軍関係者(軍人、軍属、技術者)160人が着任したことなどを、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都近畿連絡会」の上岡修さんから説明を受けました。

現地に着くと、永井さんの案内で、地元の人が「文殊さん」とよぶ清涼山九品寺にお参りしました。文殊さんの西隣は航空自衛隊経ケ岬分屯基地、東隣が新設された米軍基地で、その北側は紺碧の日本海です。基地は金網で囲われ、周囲を数分で歩いて廻れます。金網を隔てたすぐ近くに迷彩服を着て大きな銃を提げた警備員(軍属)がいるのは大変違和感のある風景でした。レーダーは建屋に覆われ、海に面して立っているので確認するこ



九品寺西側の様子。左上建屋の中にレーダーが配置されている

とは出来ません。レーダーを動かすための発電機の騒音が問題となっており、マフラーが装着されたものの、近隣の人の安眠 を妨げています。基地に貸すことをただ一人拒んでいる地権者の土地、平和菜園で記念撮影をして、絶景の宇川温泉へ移動し ました。

問題は、騒音の他にも、集団居住せず勝手に借家に住んで車を運転し事故を起こす米軍関係者が後を絶たず、事故や違反があっても日米地位協定により彼等が守られていること、X バンドとよばれる周波数を持つ強力電磁波が人体や環境に及ぼす影響が明らかにはされていないこと、迎撃ミサイルの発射により集団的自衛権行使の最前線となることなどです。だれも基地を喜んでいないけれど、交付金やしがらみで地元の人が反対運動をするのはなかなか難しいそうです。永井さんが、米軍関係者が居心地悪いように監視を続け、地元の人が声をあげ、それを支持する周りの人が多くいることが、今後の基地拡張を防ぐ鍵になると話されたことが印象的でした。

今、宇川で起っていることは、沖縄や福島、そして今後原発や基地のまわりで起こりうる問題と同じです。私たちにできるのは、知ることから一歩進んで、当事者として風を送ることかもしれません。宇川の毎日の様子を facebook で見ることができます。手始めに「憂う会」で検索してみて下さい。

(平野冨希)

会長挨拶新年度に寄せて

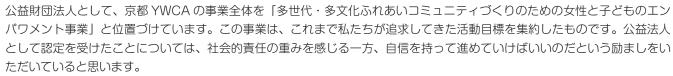
ミッション推進活動 運営委員会 2015 年度会長 弘中 奈都子 🤊

新年度が始まりました。私たちは「京都 YWCA がめざすもの」(2013 年~ 2016 年)として以下 を掲げています。

- ①女性や子どもの人権が守られる社会
- ②あらゆる暴力を否定する社会
- ③多様性を尊重し異なる文化や背景を持つ人々と共に生きる社会
- ④ 「核」のない持続可能な地球環境

これらは私たちがそうあってほしい社会を表しており、これらを目標に日々活動をしています。しか し残念ながら、現実の社会は、これとはますます遠ざかっているという状況であると言わざるを得ません。

さて、私たちは昨年度、一般財団法人から公益財団法人への移行という大きな節目を迎えました。



今後「日々進行形」で初めて経験することや困難なできごとに遭遇することもあることでしょう。歩きながら考えつつ、小 さいことと思うことでも、立ち止まってやり直すことが必要かもしれません。この事業に参加する者同士が、互いの信頼の上 に立って、率直に話し合いつつ協働していきたいものです。カメラのズームレンズのように全体を見渡したり、細部を拡大し てみたりと、柔軟に状況を把握しつつ、歩みを確実なものにしていきたいと思います。

今年は京都 YWCA 創立から 92 周年になります。「YWCA は人なり」とは先輩たちから語り継がれている言葉ですが、その 通りだと改めて感じます。日々活動している方、心を寄せてくださる方、新たに関わりを持たれた方、支援・応援して下さる人々 や団体の方々に改めて感謝しつつ、ご挨拶といたします。

新職員紹介(自立援助ホーム「カルーナ」担当)



岩佐 恭子さん

はじめまして。数年前より保育士 として幼い人たちと関わり、2.年ほ ど前より思春期の女の子のシェル ターでボランティアをしていまし た。

昔インドで出会ったのは、食堂で 次々と客がどろどろにしていく白い タイルの床をひたすら雑巾で追いか

ける5~6歳の男の子。ラオスの保護シェルターで出会った 女の子は、5歳で両親から売られ買春され12歳で保護された ばかりでした。彼らの眼には大人への怒りと諦めが浮かんで いるようで、ただ申し訳なくて、――私に何ができるのだろ う―と。

「カルーナ」に縁あってやってくる女の子たちにしっかり寄 り添って、社会の大海原に漕ぎ出すのを大事に大事にお手伝 いしていきたいと思っています。彼女たちにとってYWCAは、 暖かな多世代の女性に囲まれた素敵な出会いの場になると思 います。私自身も多くの学びをいただけることを楽しみにし ています。どうかよろしくお願いいたします。





横川 宏美さん

4月1日から、「カルーナ」が始 動しました。その「カルーナ」のケ アワーカーとしてお手伝いさせてい ただくことになりました。家族は夫 と二人の娘と息子一人、夫の母がい ます。昨年から男子の猫も同居して



学生を終えてから、幼稚園勤務、

専業主婦、保育園勤務、児童養護施設勤務を経て、「カルーナ」 でお世話になることになりました。自分の体や我が子の年齢 に合わせて、その時々で出来ることをする場所が与えられて きました。そのことに感謝しています。

日々の生活で面白いことを見つけて笑って暮らせればいい と思っています。気が小さいのに態度はでかいです。くよく よしてしまって困ることもありますが、最終は何とかなると 思える楽天家だと自分では思っています。人見知りをするの で、新しいところでの人との出会いにドキドキしつつ、その 出会いが楽しみでもあります。こんな私ですが、よろしくお 願いいたします。

自立援助ホーム「カルーナ」開所式と記念講演

カルーナ

自立援助ホームとは、15歳から20歳までの、家庭がない 児童や家庭にいることができない児童が入所して自立を目指す 施設を言います。京都YWCAの自立援助ホーム「カルーナ」 がこの春に運営を開始するに先立ち、2月28日に開所式を実 施し、弁護士の安保千秋さんに記念講演をしていただきました。

安保千秋さんは、3年前に子どもシェルター「はるの家」とそれを運営するNPO法人「子どもセンターののさん」を立ち上げられ、その経験に基づくお話はたいへん示唆に富むものでした。近年、「家族の状況の大きな変化」、「情報化社会の急速な発展による社会の変化」、そして「経済格差」のために、子どもの状況の深刻化と、支援の困難化が顕著であると述べられました。児童養護施設に入所してくる子どもの半数以上は被虐待児だそうです。そして「カルーナ」のような自立援助ホームでは、年長であるために、成熟度、個性、抱える問題、環境などが多様になり、さらに複雑になってくるとのことです。

でも私たちが彼らの重荷を担うことはできない、できるのは共に歩み、一人ではないと伝え、支援することだけである、 そしてその支援には柔軟性、きめ細やかさが必要だと述べら れました。警告や助言ではなく、子どもの言葉に耳を傾け、子どもの意思を尊重しながら共に考え、共に歩むことが大切だと強く言っておられたのが心に残りました。また、アフターケアの大切さも述べられました。講演終了後は大勢の方が3階の「カルーナ」の施設を見学されました。この開所式と記念講演に、府下の児童相談所や児



講演する安保千秋さん

童養護施設などの関係者、「カルーナ」の後援会員など50人を超える参加者があり、自立援助ホームへの関心の高さが窺えました。

すでに「カルーナ」では子どもたちの生活が始まっています。 「子どもを真ん中に」を忘れず、少女たちの「居場所」づくり を進めていきたいと思います。「カルーナ」へのご支援をどう ぞよろしくお願いいたします。

(小寺敬子)

シリーズ ~京都 YWCA 多世代・

多文化ふれあいコミュニティづくり~

「サラーム」で野菜づくりに挑戦 **グラーム** ~屋上ガーデンだより

サラーム運営委員会

高齢者住宅「サラーム」からアクセスできるホール屋上にプランターを置き、土を入れ、ラディッシュとベビーリーフの種をまきました。3月中旬には芽が1センチ程出揃ったとのうれしい知らせ。その後、間引きもして、順調に成育中です。

「サラーム」にお住まいの方たちの楽しみになればと考えて始めることにした屋上ガーデン。トマトやきゅうりなどの苗も植えようと張り切っています。収穫物を食堂



改修された南側入り口と花壇

で使ってもらえるかな、たくさんできるようなら買ってもらって経費 補てんに、などと楽しい想像を膨らませながら。

晴天続きになれば水遣りも必要でしょう、支柱立てもしなくてはなりません。手伝ってくださる方があればうれしいです。会館へ来られたら一度見に来てください、きっとあなたも野菜づくりに興味を覚えられることでしょう。

会館の南側入り口、うららかふぇへのアプローチにいろんな花が咲いているのもお気づきでしょうか?季節の花を少しずつ増やしています。花壇づくりのアイデアもお待ちしています。

福島プロジェクト

3月26日-29日 ~中高校生と過ごした4日間~

この春休みは中高校生を対象にプログラムを 組みました。京都に来て「将来の進学を考えよ う!」と呼びかけ、福島から7人の中高校生が 参加しました。今回は、朝8時半から10時ま でが勉強タイムで、それぞれ持ってきた宿題な どをボランティアの人たちに教えてもらいなが ら熱心に取り組みました。その後は観光と大学 見学。事前に聞いていた希望をできるだけ取り 入れ、1日は、和菓子作り体験、金閣寺見学、ノー トルダム女子大学訪問、京都工芸繊維大学散策、 バプテスト看護専門学校訪問。もう1日は、同 志社大学の図書館見学と学生食堂での昼食、京 都大学見学、そして、清水寺または京都水族館 見学でした。夕食はボランティアや職員と一緒 になって自分たちで作りました。美味しく、楽 しいひと時でした。

この4日間の京都での体験を通して、福島の子どもたちが将来のために何か得られたのであったなら幸いです。

今後のプログラム

◎チャリティコンサート

同志社大学グリークラブ出身ヴォーカル・カルテット『ラグタイム』

5月のひと時、懐かしいハーモニーに酔ってみませんか? 共にお茶を頂き、懐かしい歌を歌ってみましょう!!

- 日 時:2015年5月23日(土) 14:00開演(13:30開場)
- チケット:全席自由

一般 2,000 円・会員 1,800 円 (お茶・お菓子つき)

◎あじさいバザール

恒例バザー!おいしい食べ物や掘り出し物を見つけにお越 しください。

■日 時:2015年6月6日(土) 10:00~15:00

■場 所:京都 YWCA

■ 入場料:100円(東日本大震災支援に寄付します)

※当日のほか、前々日・前日のお手伝いも募集しています。 詳しくは京都 YWCA 事務所までお問い合わせください。

「うららかふぇ」ボランティア募集!

うららかふぇは、「ふれあいの居場所食堂」として気軽に ゆっくりしていただける場所を目指して運営しています。 私たちと一緒に、この居場所を作っていただけませんか?

♪食堂

- 活動日: 毎週 火曜日~木曜日、土曜日 9: 30~17: 00(祝日は除く) 1ヶ月に1回から。少しの時間でも大丈夫!
- •活動内容
 - ①調理担当 ②ホール担当(接客・レジ)
 - ③その他 お皿洗いだけなど、ご要望に応じます!

♪お菓子作り

- ・活動日:基本的に第1・3金曜日 (変則的なのでお問い合わせください。)
- ・活動内容

①お菓子作り ②ラッピング ③その他: ご要望に応じます!

♪ご質問・お問い合わせは

担当職員 臼井(うすい) までお気軽にどうぞ! お待ちしています。

ご寄付ありがとうございました。

2015年2月1日から2015年3月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

日本キリスト教団京都御幸町教会、 江尻美穂子、田渕豊子、今井貴美江、 大島溥子、文田則子、有田孝子、近藤純弘

各指定寄付

*活動総務

三市Y交流会有志

*多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業 にむけた改修募金

上村達郎、安田順子、宮武美知子、甲斐一敏、 佐野千枝子、同志社高校、坂口和子、 文田則子、畠中隆子、勝山元子、此村登代子、 安藤いづみ、匿名1名

*福島プロジェクト

福島プロジェクト有志、荒垣加津子、森律子

*親・子育ち支援活動委員会

親・子育ち支援活動委員会有志、 親子ライブラリー有志、樅山のぞ美

* APT

石井ゆき、上原有美、京都弦楽合奏団、 日本キリスト教団洛陽教会、 同志社女子大学宗教部、安藤いづみ、 日本キリスト教団上賀茂教会、近野玲子、 森律子、神門佐千子、織田雪江

*国際委員会

国際委員会有志、小寺敬子、西森頼子、 北垣景子(洛楽)

*平和委員会

平和委員会有志、長谷邦彦 (ほーぽのぽの会)、 高島照子、円城順子、カフェフリーデン参加者有志

*活動グループ連絡会

ミモザ、匿名(シャローム)

*ふれあい食堂「うららかふぇ」運営委員会 新海恵子、宮武美知子、神岡茂子、小寺敬子、

新海恵子、宮武美知子、神岡茂子、小寺敬子 坪野えり子、篠田茜、匿名1名

*自立援助ホーム カルーナ

日本キリスト教団京都丸太町教会、 日本キリスト教団室町教会、山本千鶴、 村上ヨシ子、松原千里、桑畑祐治、野田恵津、 弘中奈都子、日本キリスト教団京都南部地区、 菅谷菜穂、安保千秋、

全国自立援助ホーム協議会、

木戸さやか、日本キリスト教団上賀茂教会、 大嶋果織

*替助費

高野朗、岡昭男、高島照子、下村喜久子、 長谷邦彦、佐野千枝子、狭間紀美子、深田ローラ、 中村和雄、近藤純弘



3・4月/理事会報告

- ●福島プロジェクト:「春の保養プログラム(中高生対象)」終了。
- ●スウォンプロジェクト:8月5日~8日@京都にて「日韓ユース交流プログラム」を企画開始。参加者・ボランティアリーダー募集開始。
- ●岩佐恭子、横川宏美を主にカルーナの指導員として4月より雇用。
- ●平和委員会:スワロウカフェ主催「第2回丹後フェス」に協力。
- ●APT:2015年度から京都産業大学よりインターン受入れ予定。
- ●会館部:4月から「あじさい寮」入居者18名となる。
- ●カルーナ:4月1日より、2名の入居者で始動。
- ●南側駐輪場からサマリア館へのアプローチ整備工事実施。
- ●「エイズキャンドルパレード」(5月16日)に賛同。

K Y O T O Y W C A No.526 2015 年 5 月号(5 月 1 日発行)

発行人 上村兪巳子

発行所 公益財団法人京都 YWCA 京都市上京区室町通出水上ル

電 話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp URL http://kyoto.ywca.or.jp 郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (公財)京都 YWCA

定 価 50円